

子供と共に考える進路

千葉市教育委員会

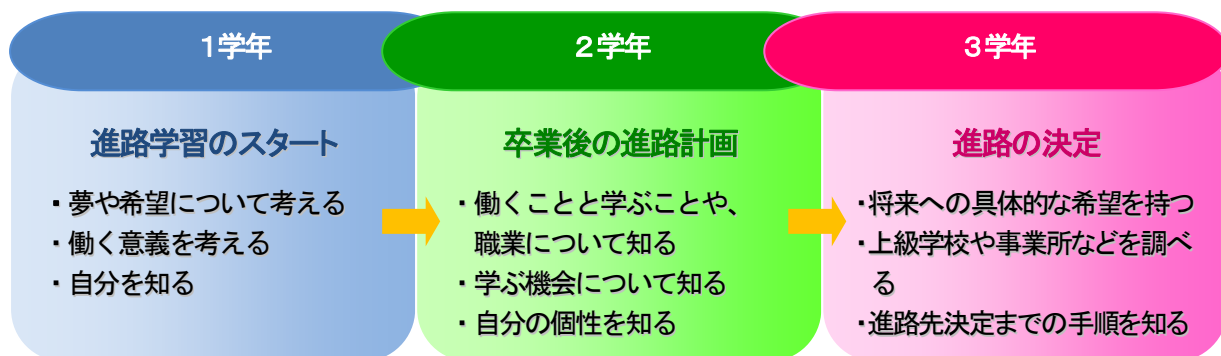
子供たちは中学生になると体や心が目に見えて成長し、頼もしくもなり、将来が楽しみになってきます。しかし、2年後の進路の選択・決定のことを考えると、どうすればよいかと不安になることもあるでしょう。

子供の進路について、「保護者としてどのように関わっていけばよいのか」という視点で、この資料を作成しました。

将来の夢や生き方を考える進路学習

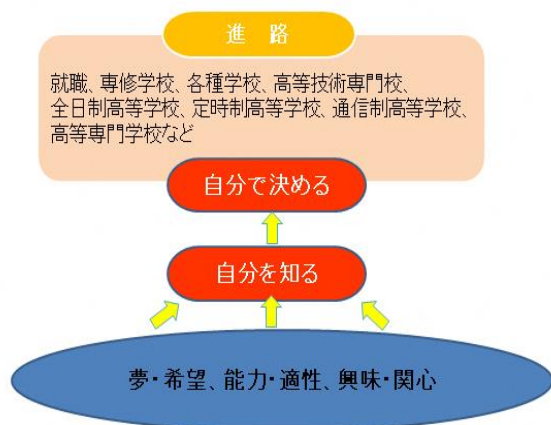
子供たちには、望ましい職業観・勤労観及び職業に関する知識や技能を身に付けさせるとともに、社会的・職業的自立を目指し、自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力・態度を育てることが必要であり、これは生涯にわたりあらゆる機会を通じて行う必要があります。

学校では、夢や希望の実現へ向けて、生徒が自らの生き方を考え、将来の進路設計ができるように進路の学習を進めています。



Q1

進路の選択はどのようにしたらよいのでしょうか？



A1 一般的に中学校卒業後の進路というと「高等学校への進学」、すなわち「進学」と考えられているところがあります。その結果、「入学できそうな学校選び」となる傾向がありました。このため、本人の興味・関心や特性等が軽視され、進路先での目標を見い出せず、多くの中途退学者が出るなどの問題も起きています。本来、進路選択・進路決定は夢・希望、能力・適性(特性)、興味・関心等を総合的に判断してなされるべきものです。現在そして将来にわたって、子供たちが、真の「生きる力」を身に付けるために、「入学できそうな学校」ではなく、将来の進路を見据えた主体的な進路選択、「行きたい学校・行きたい職場」の選択が大切となります。

Q 2

今の中学生は、どのような将来の夢や希望を持っているのでしょうか？

A2 ある中学校の生徒が「将来就きたい職業」としてあげているものをみると、



保育士・幼稚園の先生、スポーツ選手、サラリーマン、理容師・美容師、看護師、公務員、学校の先生、医師、芸能人、漫画家、イラストレーター、動物の訓練士、動物園などの飼育員、ケーキ屋さん、パティシエ

というような結果になりました。今の子供たちは、夢や希望を持っていないという人もいますが、ほとんどの子供たちが、それぞれに「夢や希望」を持っていることがわかります。しかしながら、その理由としては、「好きだから」「何となく」「向いていそう」などをあげており、職業を目指す動機としては十分とは言えません。子供たちは、今の自分の個性の一端に対する理解や、あこがれる職業の一部を知ることにより、夢や希望をふくらませていくものです。周囲の大人は、今後それが実現可能なものとなるように、あたたかく見守りながら励まし育てていくことが大切です。

進路については3年生になってから考えるという傾向が見られます。しかし、本来は今持っている夢や希望を出発点として、計画的に進路に関する学習を積み重ねていく必要があります。各中学校では、1年生から3年間を見通した計画的な進路学習が行われています。

Q 3

子供の将来の夢や希望をかなえるために、保護者としてどのような配慮をすればよいのでしょうか？

A3 中学生は心理学の上では、青年期前期にあたり、心身の成長・変化は生涯で最も著しい時期になります。したがって、保護者には、子供の発達に応じて支援していく姿勢が必要となります。中学生になった子供たちの夢を育むためには、次のような点に心がけたいものです。

子供の特性を理解しましょう

大人の多くは、子供の将来を現実的に考えてしまいがちですが、子供は自己の可能性に夢を持っています。子供の特性を理解し、夢と現実のバランスに配慮しながら接し、励ましていくことで意欲が育ちます。

多くの「ものさし」をもちましょう

この時期は、個性が開花し始めます。とかく「学習成績が良い悪い」という「ものさし」で進路を判断しようとしがちですが、様々な「ものさし」をあてることにより、それぞれの個性にふさわしい進路が明らかになります。

保護者の体験を語りましょう

働くことの楽しさや喜び、世の中に貢献することの意義や生きがいなどについて、保護者の体験を語り、子供と一緒に考えましょう。将来社会人になるための自覚を持つことが、何よりも大切です。

Q 4

中学生の段階で将来の進路について考えるのは、

早いのではないのでしょうか？

A4 将来の夢の実現に向かって、自分で人生設計を考えることに意義がある。

昨今の中学生に、「将来何になりたいの？」と問いかけると、「僕は〇〇になりたいと思っています」とか、「私は〇〇の職業に就きたいと考えています」といった答えがはっきりと返ってくるが多くなりました。将来に夢を持つことは、主体的に将来のことを考え、その職業の特色やその職業に就くための上級学校を調べたり、自分自身で将来を考えたりすることにつながります。



学校では、職場訪問や勤労体験の機会を設定し、働く人たちの姿や話から、働くことの意義や生きがいについて学び、自分の将来を考えられるようにしています。(実施時期や内容は、各中学校の計画によります)

ご家庭でも、子供との対話の中から将来の生き方や職業までを展望して、人生設計を立てさせることが大切となります。

Q 5

子供の個性や長所を伸ばすために、

保護者としてどうしたらよいのでしょうか？

A5

1 子供に豊かな体験をさせる。

まずは、子供が幅広い活動に取り組むことを大いに勧める保護者でありたいということです。

中学校時代は、人間として成長するための大切な時期です。各教科の勉強はもちろんのこと、生徒会活動や学校行事、部活動にも積極的に参加して、豊かな人間性や気力・体力を育てることが大切です。

また、校外でも地域で取り組んでいる活動や、ボランティア活動、美化活動にも積極的に参加させることにより、豊かな心や広い視野を培うようにしたいものです。

2 子供が自信を持てるように働きかける。

さらに、子供が自分の個性や長所を伸ばしていけるよう、保護者としてあたたかく見守っていきましょう。

とかく、「自分なんて」と、自己を否定的に捉える傾向にあるこの時期は、その子なりの長所を認め、自信を持てるような関わりをしていくことが大切です。自信を持つことは、本来誰もが持っている個性や長所を伸ばす大きな原動力となります。



どのようになっていますか？

A6 現行で前・後期の2回に分けて実施している千葉県公立高等学校入学者選抜を、2020年度に実施する選抜(2021年度入学者選抜)から一本化することが決まりました。

現行

◆前期選抜・・・2月中旬に実施(2日間)

〈選抜枠〉募集定員

普通科及び普通科を改編した総合学科 30%以上 60%以内、
専門学科及び総合学科(普通科を改編した総合学科を除く。) 50%以上 100%以内

〈検査内容〉第1日目… 5教科(国・数・英・理・社)の学力検査 <各教科 50分>

第2日目… 各学校で定める検査(面接、集団討論、自己表現、作文、小論文、適性検査、学校独自問題による検査及びその他の検査のうちからいずれか一つ以上の検査)

◆後期選抜・・・3月上旬に実施(1日)

〈選抜枠〉募集定員から前期選抜の入学許可候補者に内定した者のうち入学確約書を提出した者の数を減じた人数(前期選抜で募集定員を満たした場合には実施しない)

〈検査内容〉5教科(国・数・英・理・社)の学力検査 <各教科40分>、
面接等各学校が必要に応じて実施する検査

2021年度入学者選抜の改善方針

◆一般入学者選抜(本検査)・・・2月下旬に実施(2日間)

〈検査内容〉第1日目… 3教科(国・数・英)の学力検査

第2日目… 2教科(理・社)の学力検査、
各学校で定める検査(面接、集団討論、自己表現、作文、小論文、適性検査、学校独自問題による検査及びその他の検査のうちからいずれか一つ以上の検査)

*検査時間は、各教科 50分(英語は 60分)

なお、インフルエンザ罹患による急な発熱で別室での受検も困難である等、やむを得ない理由により本検査を全て受検できなかった者のうち、所定の手続により、志願する高等学校の校長に承認を受けた者を対象に、「追検査(1日で実施)」を行う。

※詳しくは千葉県教育委員会 HP『高等学校入学者選抜情報』をご覧ください。

○生徒配付資料○

本市では、市内中学校の先生方が作成した以下の資料を用いて進路学習を進めています。ご家庭でお子さんと進路の話を進めるときに大いに役立ちます。ご活用ください。

■ 1・2年生用 進路学習ノート 「わたしの夢」

自分のことや生き方を考えるためのワークシートや進路学習に必要な資料を掲載。

■ 3年生用 進路選択の手引「ハロー マイ フューチャー」

進路学習の考えをまとめる学習ノートと進路先決定までの手順や通学区域、上級学校一覧などの資料を掲載。